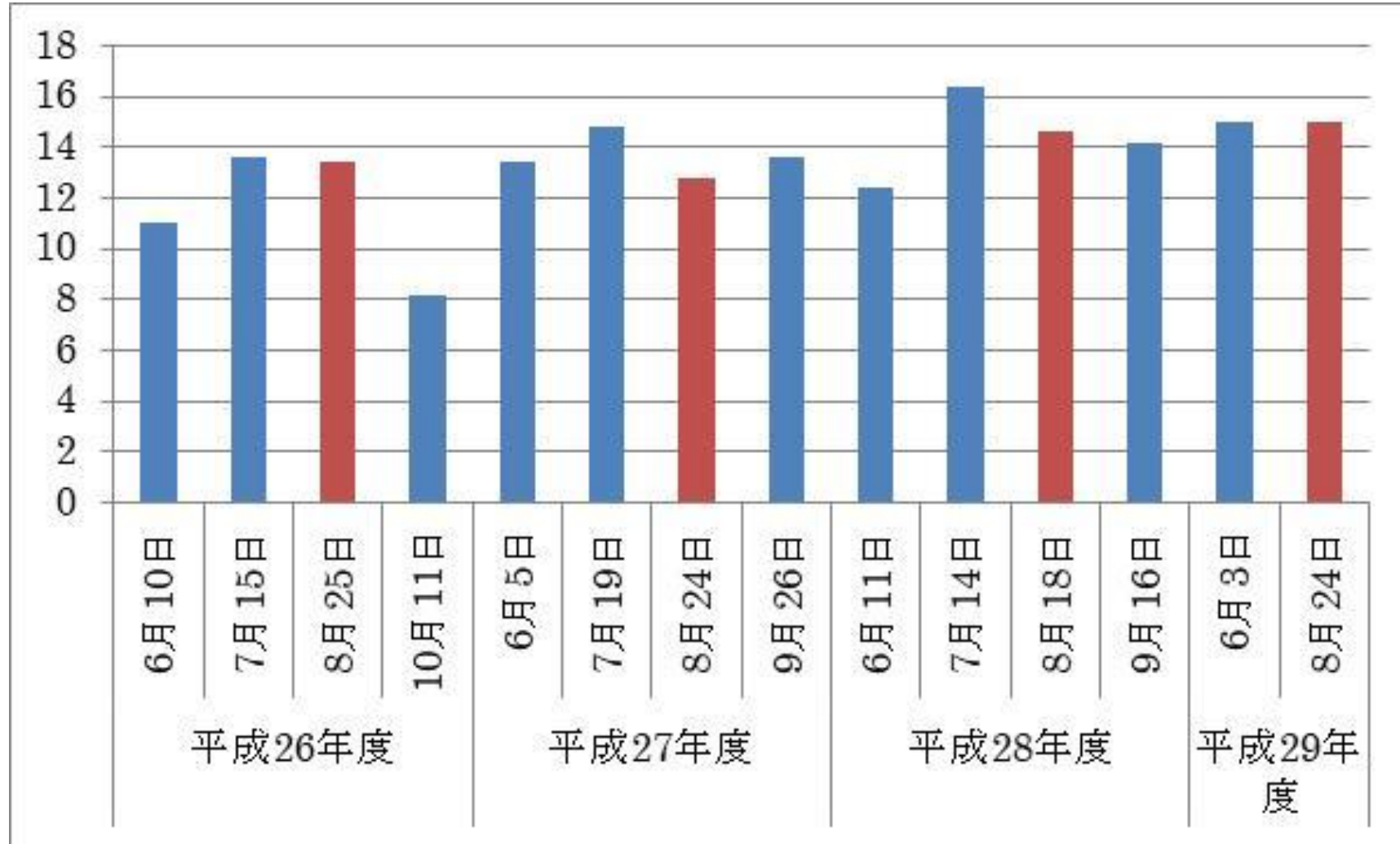




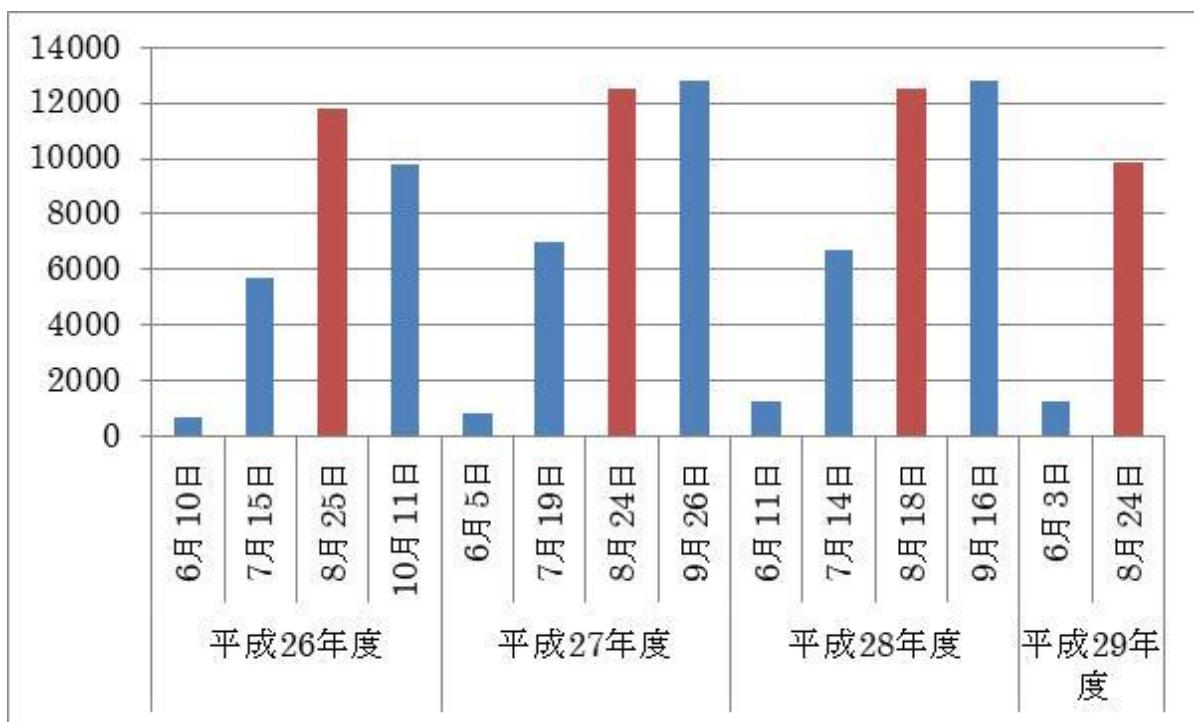
霧ヶ峰草原の刈り取り実験 & ハルザキヤマ
ガラシ駆除実験モニタリング報告
.2017年度

霧ヶ峰生物多様性研究会
土田勝義

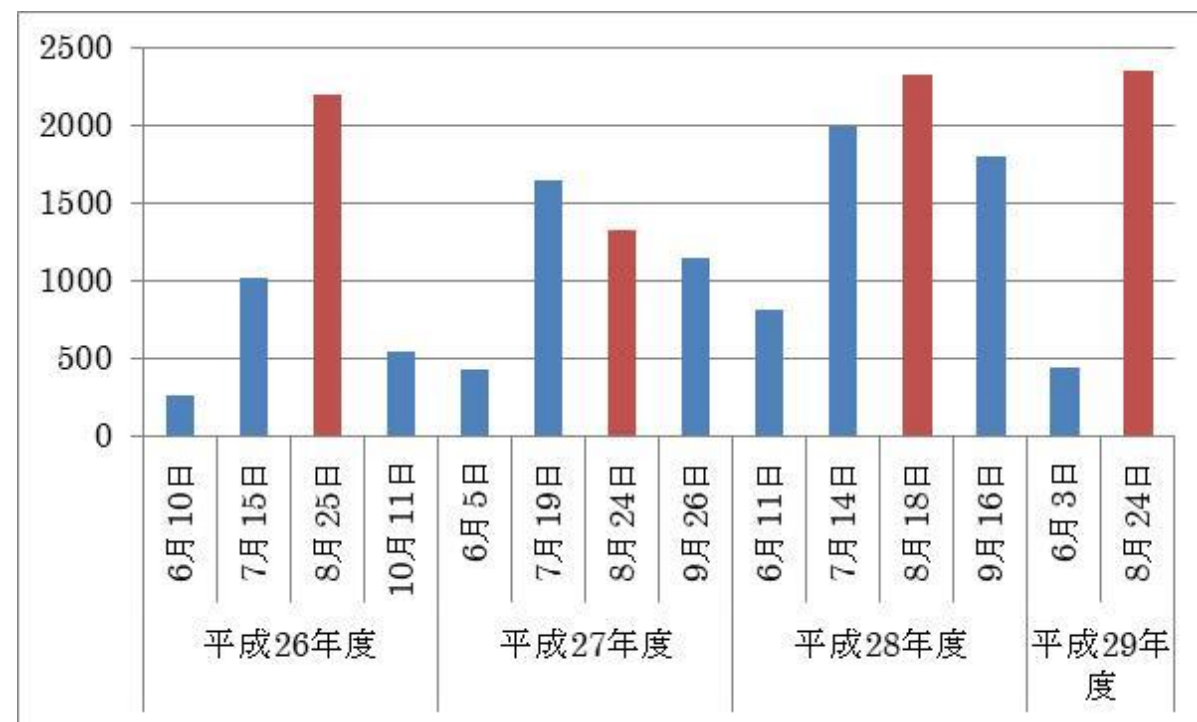
ススキ刈り取り区 平均種数の変化



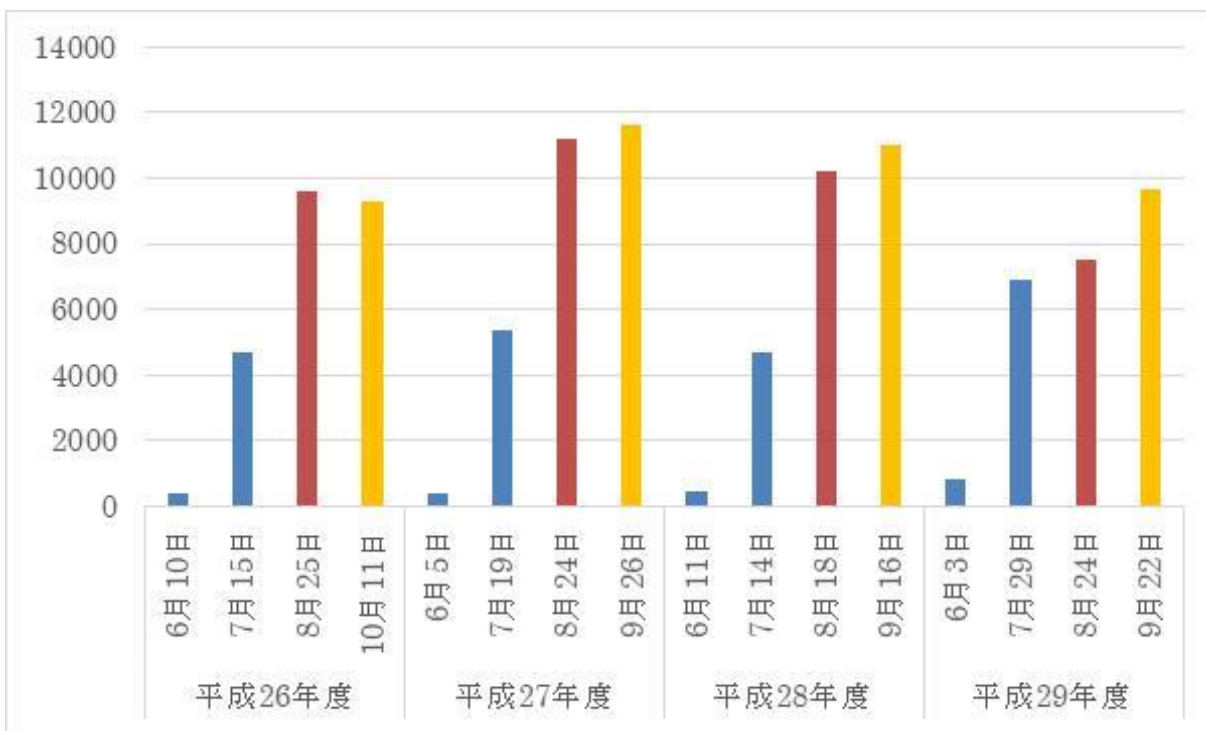
- 出現全種の平均優占度合計の変化



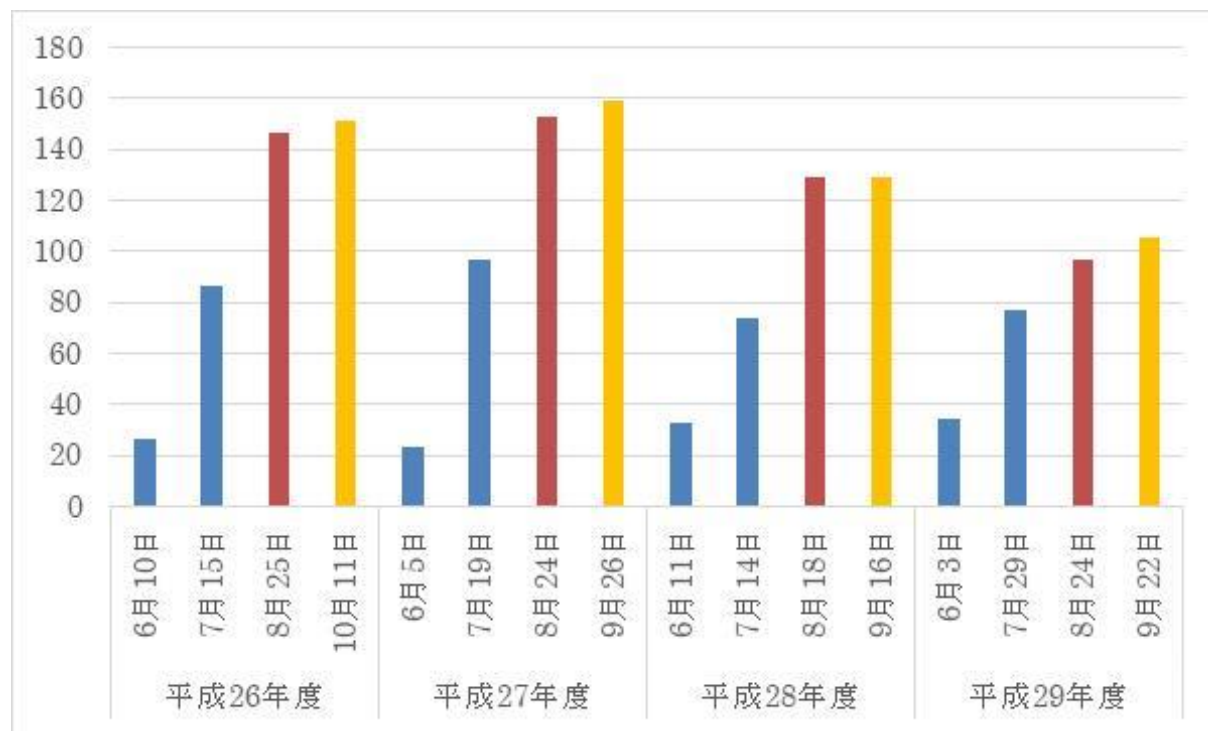
- ススキを除く出現全種の平均優占度合計の変化



・ ススキの平均優占度



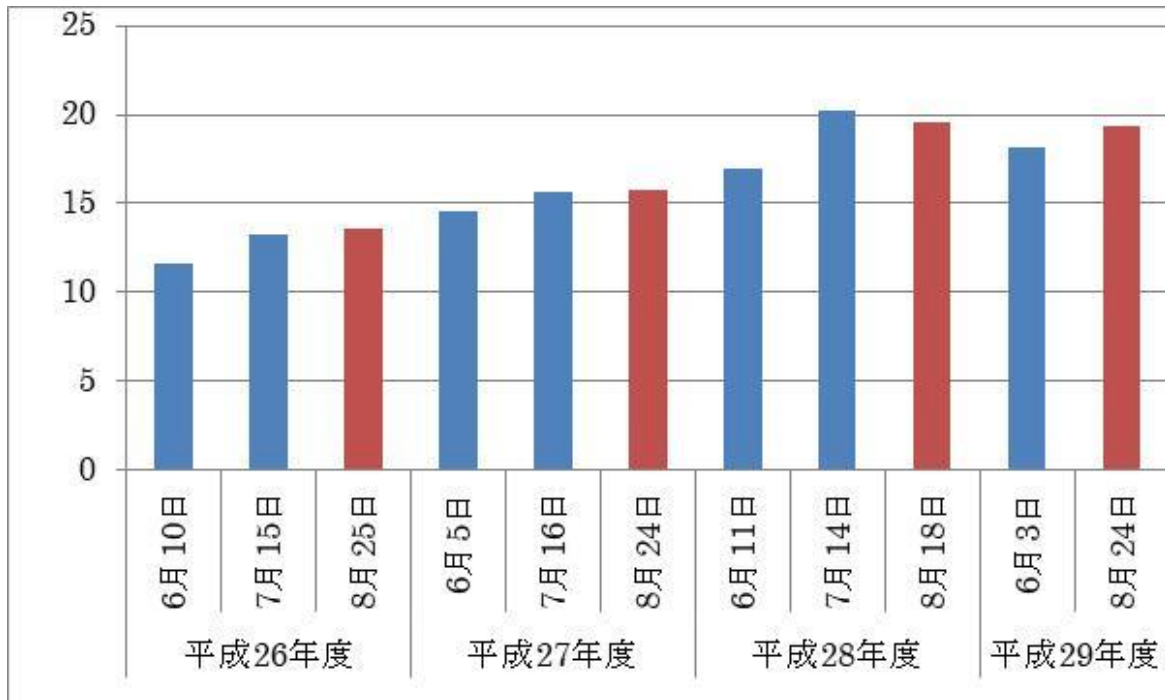
・ ススキの平均の高さ c m



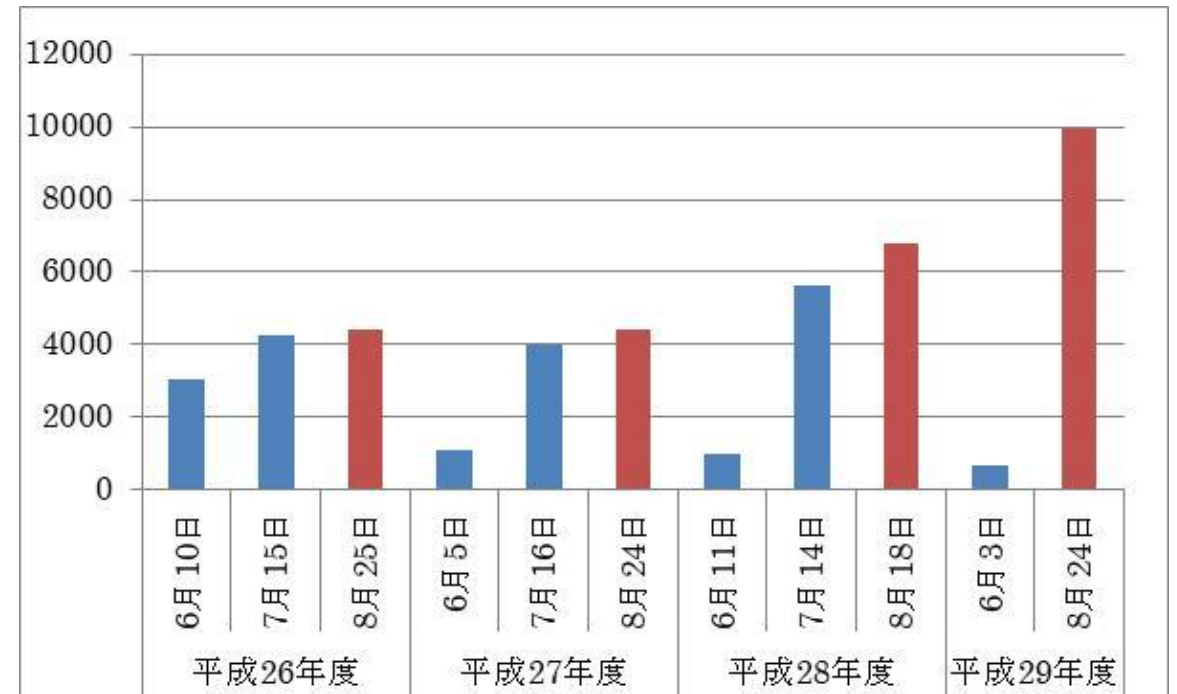
ススキ刈り取り実験区まとめ

1. 前年の刈り取り時期が9月下旬と早まっているため、出現種数は増加している。
2. いままで3回の刈り取りでススキの優占度は減少しているが、他種の生育はそれほど顕著でない。
3. さらにススキの優占度を下げるためには、早期の刈り取りが好ましい。試みに8月下旬に新たに刈り取り実験枠を設置したので、その結果をみたい。

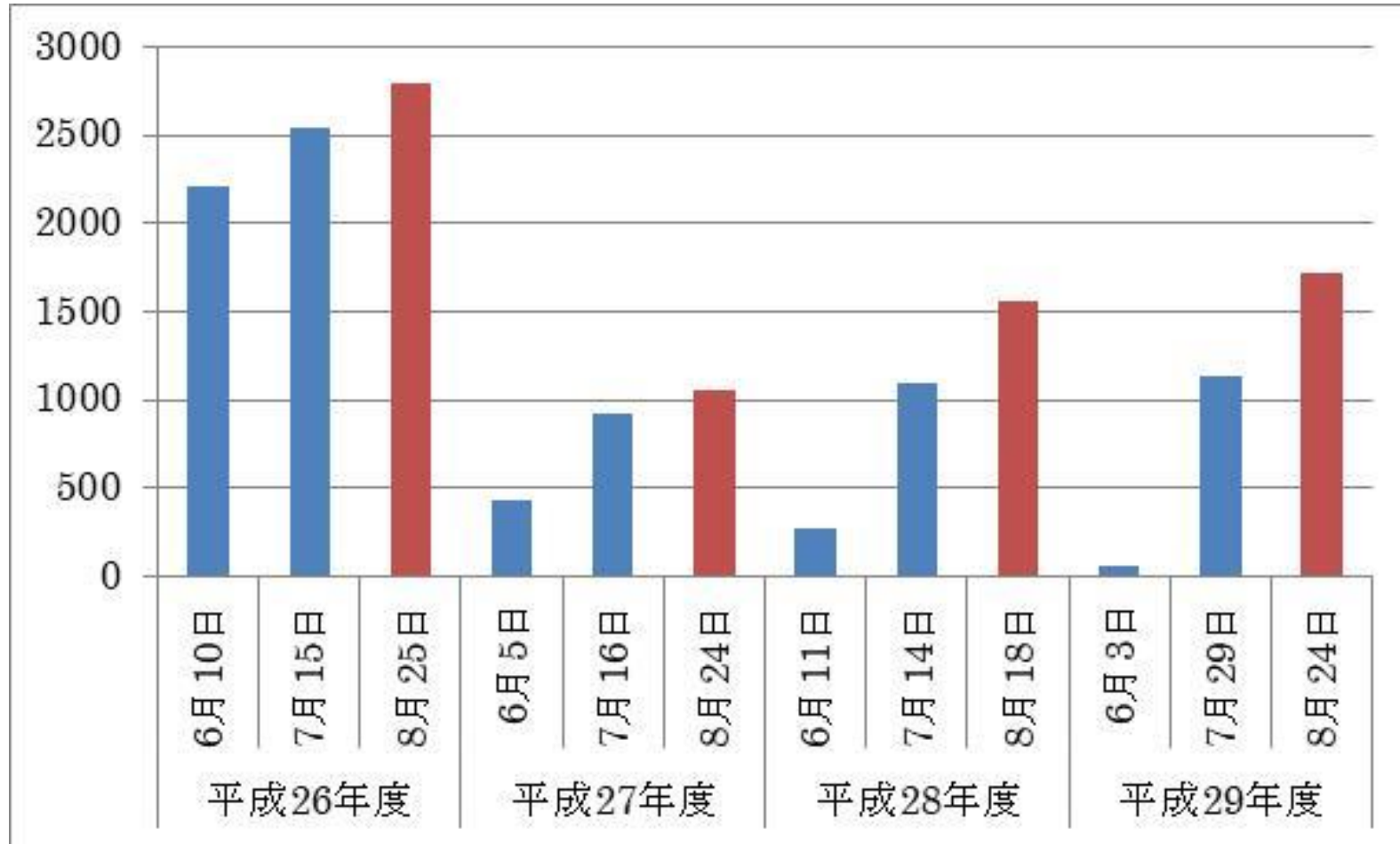
・ササ刈り取り区の平均出現週数



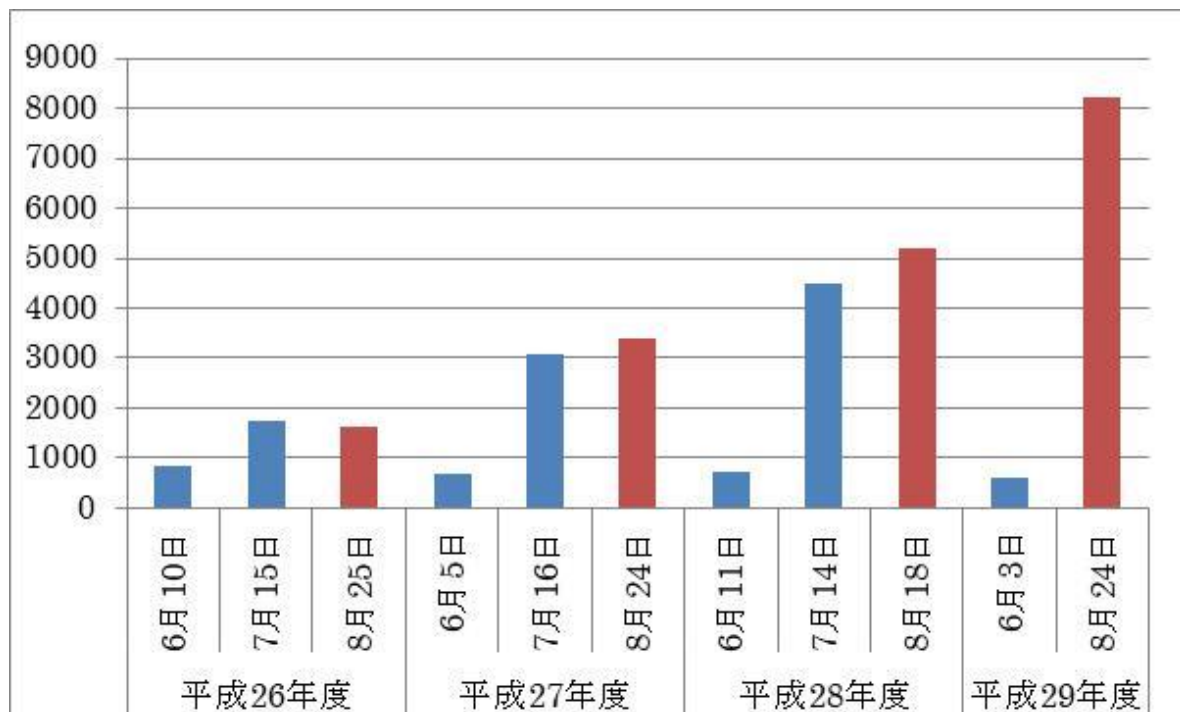
・平均優占度合計



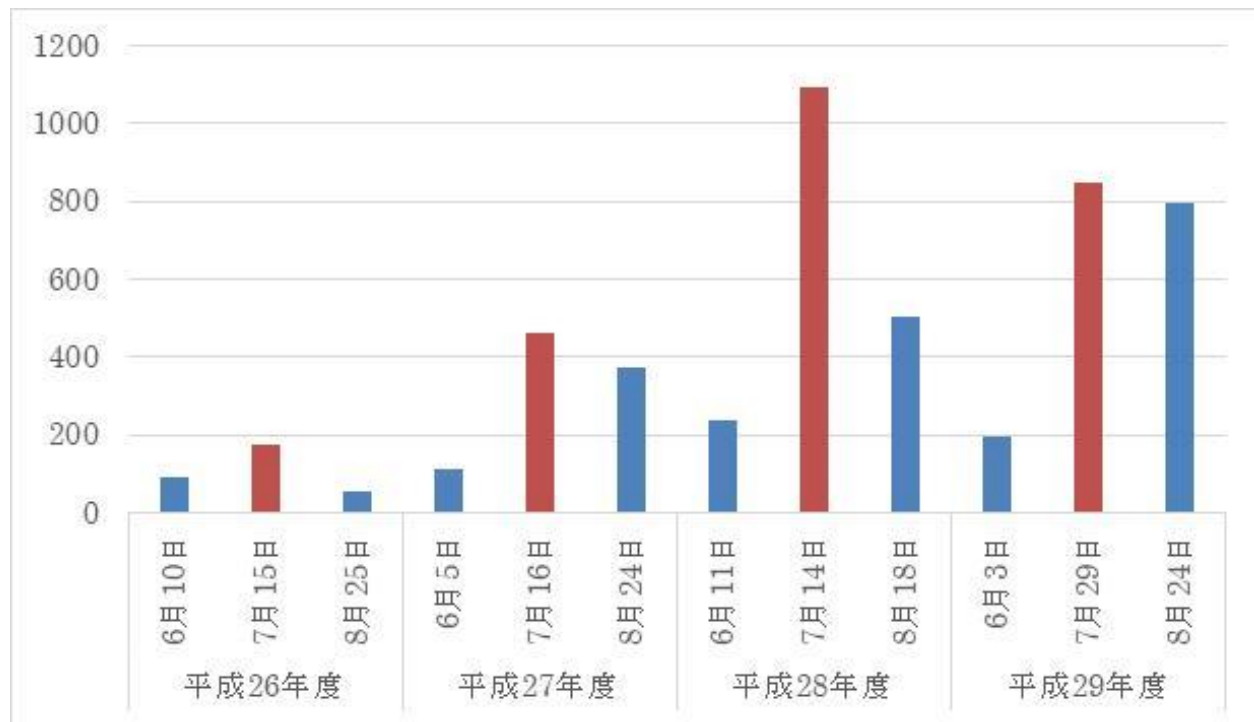
ニッコウザサの平均優占度合計



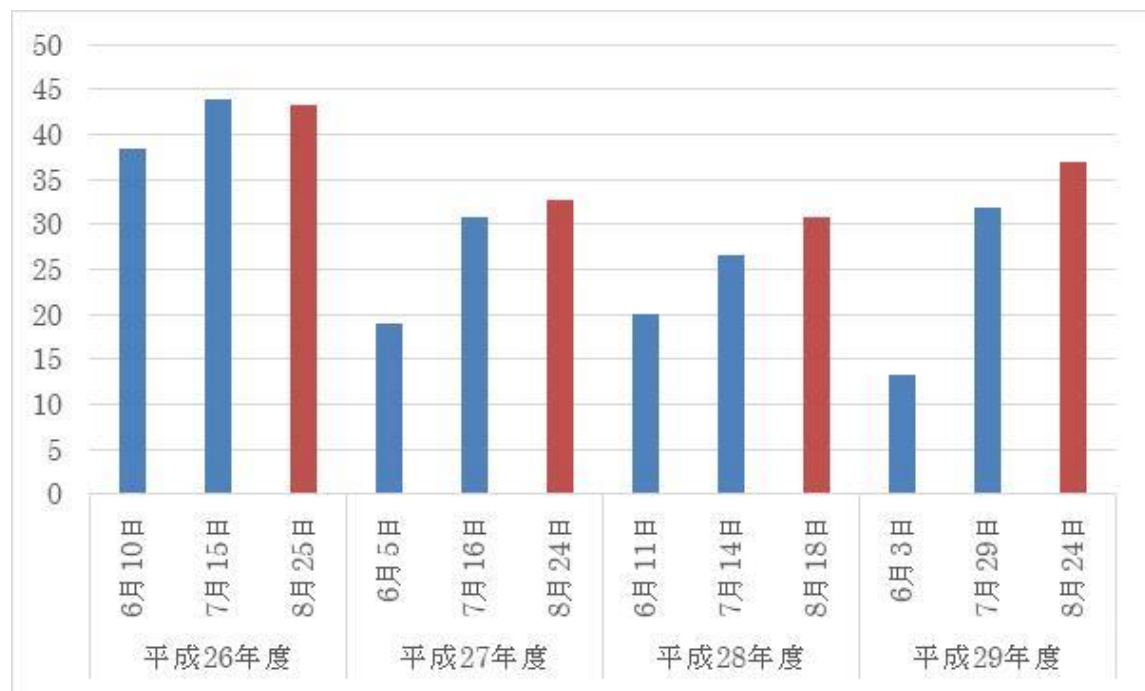
- ササを除く他種の平均優占度合計



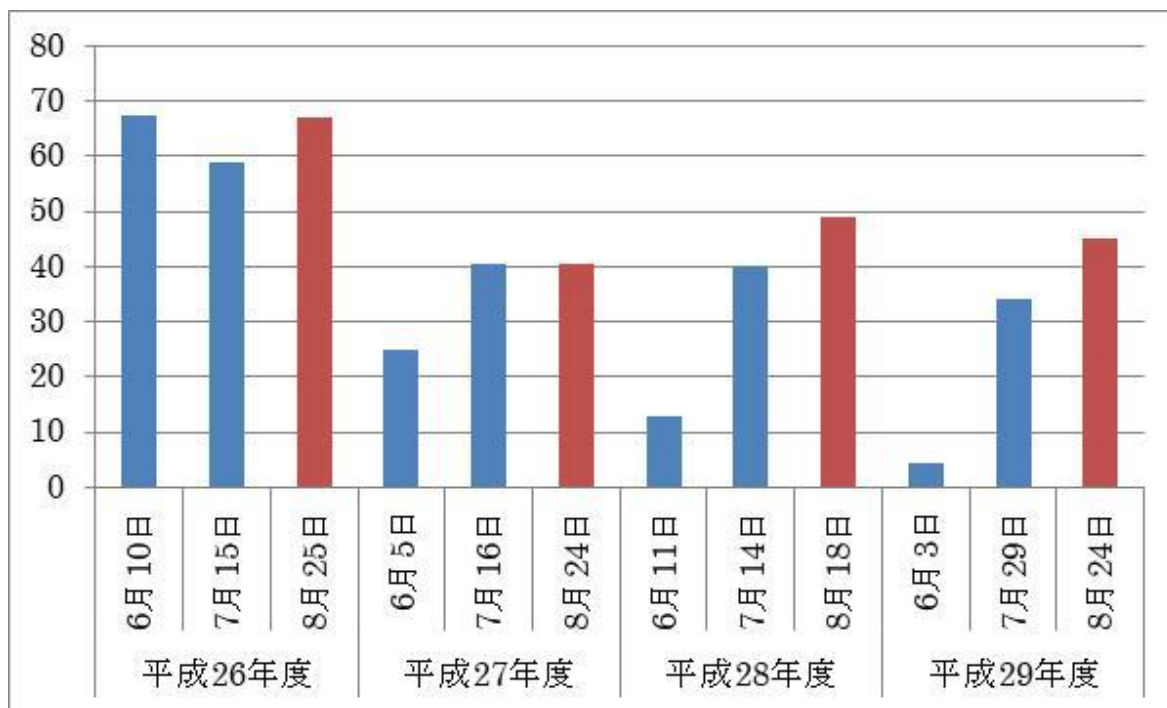
- ニッコウキスゲの平均優占度



・ニッコウザサの高さの平均 cm



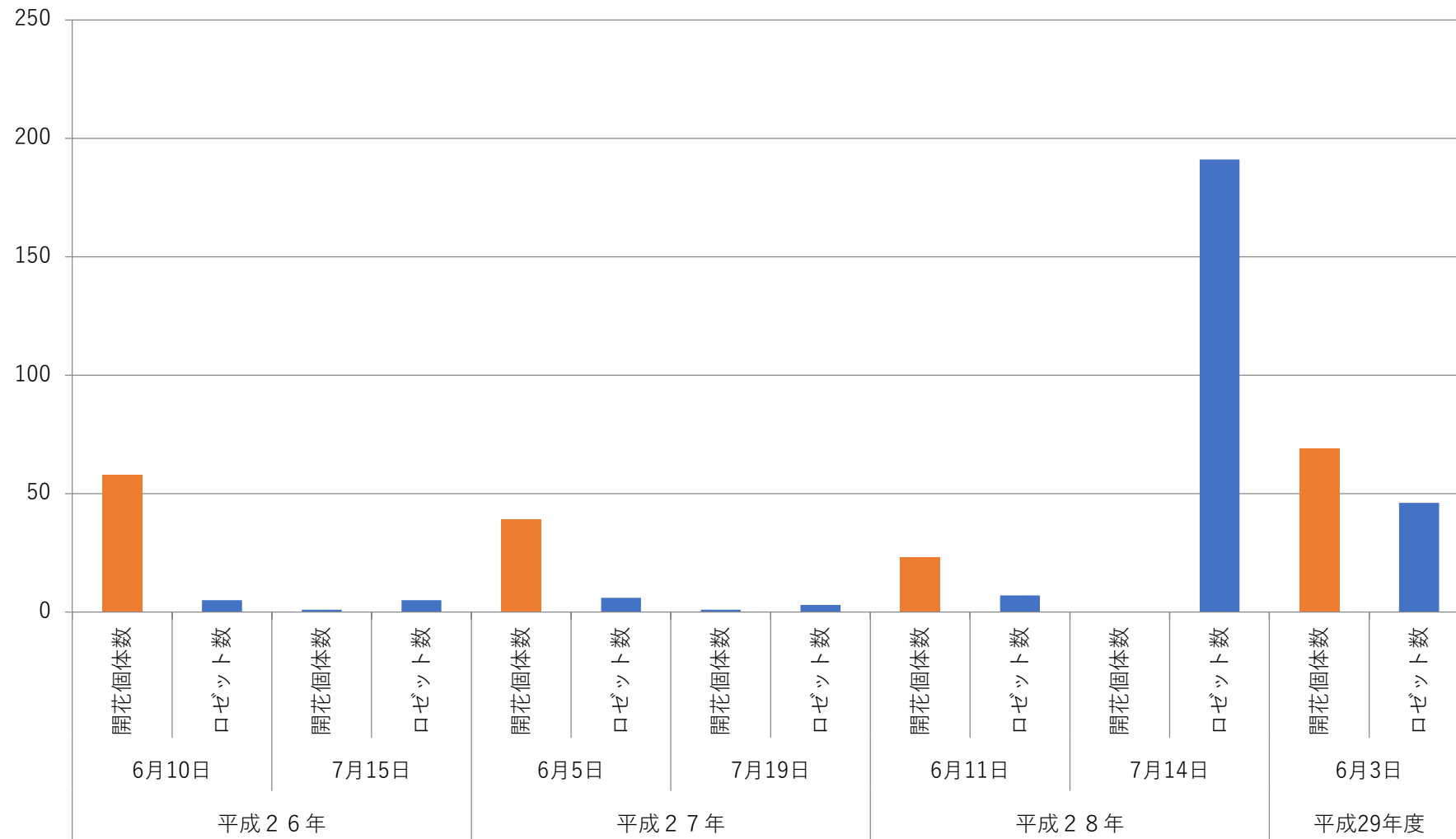
・ニッコウザサの被度の平均%



ニッコウザサ刈り取り区 まとめ

1. 出現種数はほぼ前年と同じとなったが、頂点に達したと思われる。すなわち最も種多様性が高くなった（豊かになった）。
2. ニッコウザサの優占度は前年とあまり変化がなく、高さは減少しているが被度がそれほど減少していない。ササの刈り取りによる萌芽再生によるものであろう。
3. 7月中旬のニッコウキスゲ、他の時期には季節にあった草花の増加でお花畑の景観となってきた。

ハルザキヤマガラシ駆除実験区の個体数の変化



ハルザキヤマガラシ駆除まとめ

1. 前年度（28年度）の6月調査では開花個体数は減少し、ロゼット数も少なかったが、7月調査ではロゼット数が191個と急増したため（原因不明）、29年度の6月調査では、開花個体数が急増した。ロゼット数もかなり生育していた。
2. 7月の調査が行われなかったため、当年の経過は不明。
3. 6月の駆除時にロゼットをこまめに駆除することが必要である。なお開花個体数が群落を作っている場合は、ビーバーなどによる刈り取りでもよい。